第１２回目　「素顔の再洗礼派」の総復習　　２０１５年3月１４日（土）

「素顔の再洗礼派」の著者、スチュアート・マレーが、この著書の中に記している、現代のアナバプテストたちが同調している７つの中核概念をもう一度思い起こしていただいて、この学びを閉じさせていただく。

１．イエスは私たちの模範、教師、友、贖い主、そして主である方です。イエスは私たちの命の源であり、私たちの信仰と生活様式・教会理解・社会への取り組みにおける中核となる参照点です。私たちはイエスを礼拝するとともに、イエスの後に従う決意です。
２．イエスは神の啓示の焦点です。私たちはイエスを中心とした方法で聖書に臨み、信仰共同体を主たる場として、共に聖書を読み、その見極めと適用によって弟子の道を歩みます。
３．西洋文化は、クリスンダム時代、すなわち教会と国家が共同で社会を統括し、その住民のほぼ全員がクリスチャンとみなされた時代を、徐々に抜け出してきています。その価値観や制度における肯定的な貢献が何であったにしても、クリスンダムは福音を深刻に歪めてしまい、イエスを蚊帳の外に置き、各個教会を準備不足に陥らせて、ポスト・クリスンダムの文化における宣教に対応できなくしてしまいました。この点を考慮した結果、私たちが決意したことは、アナバプティズムのように、典型的なクリスンダムの想定を拒否し、それに代わる考え方や行動の仕方を追求した諸運動から学ぶことです。
４．社会的地位・富・権力と教会による常習的な結び付きは、イエスに従う者の姿としては不適格であり、私たちの証しの妨げとなります。貧困者、社会的弱者、被迫害者にとって私たちが良き知らせとなるべく、そのような弟子道は反発を招き、その結果、苦難をともない、場合によっては殉教に至ることもあるという覚悟を持って、方策を探求していきます。
５．教会が召されているのは、弟子道と宣教、交わりの場、相互の責任と義務、それに多数の声（マルチボイス）による礼拝を捧げる、献身的な共同体であるためです。私たちは共に食事をし、パンと杯を分かち合い、一緒に神の国を求めつつ、希望を持ち続けます。私たちはそのような教会形成を促進することに献身し、そこでは若者も年配者も尊重され、協調姿勢のリーダーシップ、役割が男女別ではなく賜物によること、そして信仰者のための洗礼を必要とします。
６．霊性と経済問題は相関関係にあります。個人主義かつ消費主義社会において、シンプルに生活し、寛大に分け与え、被造物をケアし、正義のために働くことをどう実践するか、その探求に努めます。
７．平和は福音の中核にあるものです。分断と暴力に満ちた世界にあって、イエスに従う者として、私たちは暴力によらない代替策の発見に取り組み、個々人の間で、教会内、あ

るいは教会間で、社会において、さらには国家間で、平和づくりをどのように実践するかを学びます。

最後に、「素顔の再洗礼派」の第５章をもう一度開いていただいて、＜弟子道と宣教の共同体＞、＜友情とアカウンタビリティー＞、＜多数の声による礼拝と協調型リーダーシップ＞、＜老いも若きも、男性も女性も＞、＜信仰者のための洗礼＞、＜パンと杯の分かち合い＞の項目をお読みいただき、再洗礼派が追求し続けているものを再確認していただければ幸いである。